

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成21年6月号

編 集

発 行 人

大井 利夫

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

社団法人 日本病院会 通信教育部

餅は餅屋

吉 野 博

国家公務員共済組合連合会新別府病院 診療情報管理室 室長
福岡会場 専門課程(診療情報管理論I) 講師

通教月報巻頭言の依頼を受けてから、専門課程スクーリングを受講している皆さんの真剣な顔、熱気あふれる会場の雰囲気が思い浮かんでいます。このような機会を得ることができましたので、当院において診療情報管理業務(DPC業務)を円滑に行う際に用いた「ことわざ」を紹介します。それは、“餅は餅屋”。

ことわざの意味は、「素人でもできる事はあるが、それぞれ専門家がいるのだから、そちらに任せの方が確実である」となります。「さすがに、餅は餅屋だ」とか「餅は餅屋だ。専門家に任せよう」と言った使い方をします。ちなみにインターネット等で英語表記を調べると、“Every man to his own trade.”「人は全て自らの業につく」という意味です。さて、この「ことわざ」をどのような局面で使ったのか。

当院は2004年度にDPC準備病院、2006年度からDPC対象病院となりました。DPC業務を大きく分けると、DPCデータ入力、データの点検、診療報酬の請求業務となります。ある病院では、DPC導入当初、医師・看護師の業務を増やしたくないという理由で、DPCデータの入力から点検業務まで診療情報管理士(もしくは医事課)が行っていました。

しかし、当院ではDPCスタート当初から、DPCデータの入力に関しては、医師・看護師にお願いしました。DPC診療情報の把握、情報精度の信頼度から言って、医師・看護師の方が優っていることは明白です。そのため、“餅は餅屋”を使って先生方の協力を得ることにしました。当然のことながら、そのまま表現する訳ではなく、“DPC診療情報すべてを診療情報管理士が入力するには、およそ30分はかかります。担当されている先生が入力するにはどれくらいかかりますか?・・・先生いわく5分くらいかな・・・それでは、先生!お願い出来ませんか・・・ん、そうだね・・・”という会話を経て協力を得ることができました。ただし、診療情報管理室では、傷病名の選択・ICDコーディングの点検、診療録とDPC入力データとの整合性を確認しますとの補足も忘れずに。

DPC業務を効率よく運用するためには、各部署がそれぞれの業務(餅)を迅速にかつ確実に行うことが必要です。その際、それぞれの部署が単独に業務を遂行するのではなく、他部署の業務を理解すること、またお互いのコミュニケーションを取ることが重要となります。この調整役となるのが診療情報管理士でしょう。病院内で、餅屋の“杵”となり“臼”となれるよう頑張ってください。